

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-179	16-036	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)		
Deconstructing the Alcohol Harm Paradox: A Population Based Survey of Adults in England. アルコールの悪影響に関するパラドックスの再検討: 英国の一般地域住民成人を対象にした調査		
執筆者		
Beard E, Brown J, West R, Angus C, Brennan A, Holmes J, Kaner E, Meier P, Michie S.		
掲載誌		
PLoS One. 2016 Sep 28;11(9):e0160666. doi: 10.1371/journal.pone.0160666.		
キーワード		PMID
逆説、アルコール害、The Alcohol Use Disorders Identification Test		27682619
要 旨		
<p>目的: アルコールの悪影響に関するパラドックスは、より低い社会経済的地位の群(SES)が飲酒量は少ないがアルコール関連の問題はより多く経験するという観察を指す。しかしながら、SESは複雑な概念であり、その観察された社会問題との関係は、どのように測定され、どのように人口集団を対象に研究したかによってしばしば左右される。本研究はSESの複数測定を用いてSESによる飲酒とアルコールの悪影響のパターンを評価し、性と年齢によりこのパターンが異なるかを調査した。</p> <p>方法: 対象は2014年3月から2015年9月の間でthe Alcohol Toolkit Studyに参加した英国〔イングランド〕在住31,878人の成人(16歳以上)。参加者は、飲酒量、アルコールの悪影響とアルコール依存度を含むThe Alcohol Use Disorders Identification Test (AUDIT)を完了した。SESは資格、就業状況、家屋や自動車の所有、収入と社会等級、そしてこれらの因子の複合指標を評価した。SES複合指標はスコアが高いほど社会的に不利な状態を反映するように作成し、SES複合指標とAUDITスコアの関連をロジスティック回帰分析で検討した。</p> <p>結果: SES複合指標とAUDIT-飲酒量スコアは線形的負の関係($\beta = -0.036, p < 0.001$)を、AUDIT-害スコア($\beta = 0.022, p < 0.001$)とAUDIT-依存スコア($\beta = 0.024, p < 0.001$)は線形的正の関係を認め、アルコールの悪影響に関するパラドックスが観察された。SESの個々の評価は、AUDITモジュールと異なる関連、非線形の関連を示した。例えば、教育がAUDIT消費スコアと逆u字形の関連があるのに対して、社会等級と収入にはAUDIT消費スコアとu字形の関連があった。ほとんどすべてのSES評価は、AUDIT-依存スコアとAUDIT-害スコアと指数関係を示した。また、SESとAUDITの関連は年齢と性別の影響を受けており、AUDIT-依存スコアは男性において低いSESでスコアが急峻に増加し、AUDIT-害とAUDIT-依存スコアは若年群において低いSESでスコアが急峻に増加することを確認した。</p> <p>結論: 個々のSES評価項目についてアルコールの悪影響に関するパラドックスの妥当性を確かめた。このパラドックスは、個々のSES評価項目が、全てのSESの等級で直線的な影響が観察されるか、もしくは、社会的に不利なSESの等級でより強い影響が観察されるかどうかに影響される。アルコールの悪影響についてのパラドックスは男性と若い年齢層に集約されていることが示唆された。</p>		